

令和5年度 事業報告書

令和5年4月1日～令和6年3月31日



やまびこ座開館35周年記念事業
「さっぽろパペットシアタープロジェクト『北のおばけ箱2』」





公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

目次

I. 令和5年度 総括.....	1
II. 経営理念.....	2
III. 事業報告.....	2
1. 事業実施状況.....	2
2. 施設管理運営.....	2
3. 事業実施報告概要（事業区分別）	3
4. SDGsの取り組み.....	5
5. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況.....	7
6. 各課（各施設）事業実施報告.....	18
(1) こども育成課（児童会館・ミニ児童会館）	18
(2) こども事業課.....	20
(3) 千歳事業所（児童館・学童クラブ・青少年会館）	21
(4) こども劇場課（やまびこ座・こぐま座）	22
(5) 若者支援事業課（若者支援施設）	24
(6) 企画事業課（野外活動系事業・滝野自然学園）	26
(7) 企画事業課（北方自然教育園）	27
(8) 野外活動課（定山溪自然の村）	28
(9) 野外活動課（青少年山の家）	29
(10) 市民参画課（札幌エルプラザ公共4施設）	31
(11) 企画事業課（自主事業・受託事業）	33
7. 基金事業.....	34
8. 重要な契約に関する事業.....	37
IV. 事務報告.....	38
1. 設立年月日.....	38
2. 定款に定める目的.....	38
3. 定款に定める事業内容.....	38
4. 事務所の状況.....	38
5. 役員等に関する事項.....	38
6. 職員に関する事項（令和5年度末現在）	40

I. 令和5年度 総括

令和5年度は、人々の暮らしが「新しい日常」の中で動き始めた最初の年であり、同時に当財団にとっては、札幌市における第5期指定管理期間5年間のスタートとなる節目の年であった。

各施設においては、様々な制約の中にあっても、これまでに培ってきた事業ノウハウを基に工夫を重ね、各種事業を推進し、全てをマイナスと捉えることなく、新しいスタイルでの事業展開にチャレンジし、その可能性を広げてきた。

新たな取組みの一つとしては、札幌市児童相談所一時保護児童を対象としたさまざまな活動プログラムの提供がある。若者支援事業で培ってきたスキルと、当財団のスケールメリットを生かし、室内プログラムのみならず定山溪自然の村をフィールドとした自然体験活動の実施にも広がった。遊びや野外体験を通じて参加者の心や身体の解放を促進する機会となった。

また、「さっぽろ雪まつり つどいむ会場」は4年ぶりの再開となり、関連団体や学生ボランティアとともに事業を展開し、札幌市民はもちろんのこと、海外からの観光客など幅広い世代に向けて観光都市さっぽろの魅力を発信する機会を創出した。

このような事業をとおして職員それぞれが体験活動の価値や意義をあらためて認識し、心豊かな暮らしの実現に向けた幅広い活動を展開することができた。

併せて、令和5年度は千歳市児童館・学童クラブ受託事業の最終年度でもあった。これまでの取組みに対する効果検証を踏まえ、培ってきたノウハウを生かした事業提案を行い、令和6年度からも、引き続き受託者として選定を頂いた。今後も利用者と積極的な対話や連携を進めるなかで、ニーズを把握し、子どもの居場所としての認知度向上に向けて、一層の信頼を積み重ねていく。

私たちを取り巻く現代には、異常気象による予期せぬ自然災害や、デジタル化推進の裏に潜むリスクなどが日常の中に存在し、それらに正しく対応する力が求められる社会であると言える。目まぐるしく変化する社会ニーズを敏感に感じ取り、新たな発想を生み出せる主体的な人材を育成し、その職員が意欲的に業務に取り組むことで、更なる市民サービスの向上を推進していかなければならない。

同時に、持続可能な社会の構築が求められる時代において、当財団として「札幌SDGs企業登録制度」の認証を受けたことを踏まえ、今後とも事業をとおしてよりよい社会の実現に向けて、一層の挑戦を継続していく決意である。

Ⅱ．経営理念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

Ⅲ．事業報告

1．事業実施状況

令和5年度 事業基本方針	
1	事業環境の変化への速やかな対応
2	未来ビジョンに基づくブランディングの推進
3	法人資源の有効活用
4	デジタル投資による業務変革の推進
5	持続的成長のための戦略的経営

2．施設管理運営

(1) 自主運営	1施設
・ 滝野自然学園	
(2) 指定管理事業	118館・4施設
・ 若者支援施設	5 館
・ 児童会館	110 館
・ 青少年山の家	1 施設
・ 定山溪自然の村	1 施設
・ 北方自然教育園	1 施設
・ 札幌エルプラザ公共4施設	1 施設
・ こどもの劇場やまびこ座	1 館
・ こども人形劇場こぐま座	1 館
・ 千歳市青少年会館	1 館
(3) 受託事業	99 館・18箇所
・ ミニ児童会館	89 館
・ 千歳市児童館・学童クラブ	10 館・18箇所



3. 事業実施報告概要（事業区分別）

- 【定款第4条】（1）青少年の健全育成と社会参加に関する事業
（2）社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

子ども育成事業

- （1）青少年活動支援事業
 - ・放課後児童クラブ事業 ・学習活動事業 ・各種講座、講習会
 - ・劇団育成支援事業 ・インターンシップ、各種実習の受け入れ
- （2）体験機会創出事業
 - ・社会奉仕活動事業 ・各団体との共同開催事業
 - ・子どもの体験活動機会を創出する事業
- （3）施設管理運営事業
 - ・児童会館の管理業務、貸室等 ・こども劇場の管理業務、貸室等
 - ・千歳市青少年会館の管理業務、貸室等

若者自立支援事業

- （1）体験機会創出事業
 - ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
 - ・交流促進事業 ・ボランティア参加事業 等
- （2）受託事業
 - ・地域若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等
- （3）調査研究事業
 - ・社会的自立に関する調査・研究事業
- （4）施設管理運営事業
 - ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

自然体験活動事業

- （1）滝野自然学園事業
 - ・体験機会創出事業 ・職員派遣事業 ・情報発信事業 ・団体支援事業 ・施設管理運営事業
- （2）北方自然教育園事業
 - ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業
- （3）定山溪自然の村事業
 - ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業
- （4）青少年山の家事業
 - ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

【定款第4条】（3）市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

（1）活動支援事業

- ・男女共同参画啓発事業 ・市民活動関連事業 ・NPO活動支援事業
- ・相談 ・支援事業

（2）職員派遣事業

- ・大学、高等学校他への職員派遣

（3）情報発信事業

- ・各種情報誌の発行事業

【定款第4条】（4）その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・民間企業等から受託したイベント企画運営等事業 ・物品貸与等事業

他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、公益目的外での施設貸与事業

- ・札幌エルプラザ公共4施設、定山溪自然の村、青少年山の家管理運営
- ・こども劇場、若者支援施設における公益目的外での施設貸与事業

4. SDGsの取り組み

当財団が取り組む4つの事業と特に関連性のあるゴールを示しています。

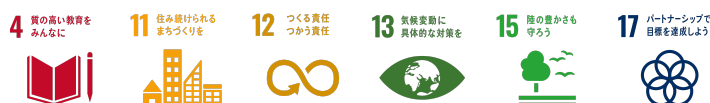
青少年の健全育成と社会参加に関する事業



私たちは子どもたちの学びをサポートする事業をととして、家庭環境に左右されない学習機会を創出します。また、自然の中での体験機会を創出し、環境保全意識の醸成と、豊かな人間性の発達に貢献します。

児童会館・ミニ児童会館 こども事業に関する事業 千歳市児童館・学童クラブ 千歳市青少年会館
やまびこ座・こぐま座 若者支援施設 滝野自然学園

社会教育の推進に関する事業



自然環境の中では、自ら考え、生み出す力が養われると考えています。必要なものを必要なだけ用意することや、そのための仕組みづくりなど、料理や工作、農業体験をととして行う社会教育は、持続可能な生活様式への気付きを促します。

北方自然教育園 定山溪自然の村 青少年山の家

市民活動の振興に関する事業



1980年の創設時から、社会に関わる全員が平等に能力を発揮できる社会を目指して活動してきました。これは、ジェンダー平等を謳うSDGsの理念と同じ考え方であり、私たちが目指す社会のあり方そのものでもあります。これからも、誰もが活躍できる社会の創出に、機会や場所の提供で貢献していきます。

札幌エルプラザ公共4施設

その他法人の目的を達成するために必要な事業



受託したイベントや自主企画の事業、広報事業や調査・研究事業をととして、市民の生活をより豊かにする取り組みを実施しています。SDGsの目標達成に向けて、行政・民間企業・市民との良好なパートナーシップのもとに持続的な活動を行えるよう取り組みます。

イベント事業

障がい児との文化芸術推進事業

「元町北小学校すぎの子学級人形劇創作体験」

(こども劇場課)

地域で活動する市民劇団と協働し、障がいのある子どもたちを対象に人形劇の創作体験機会を提供した。当事業は、脚本や人形作りから発表に至るまでの過程を体験してもらうことで、子どもたちの表現力や他者と関わるコミュニケーション力を養うことをねらいとして実施した。また、障がいの有無に関わらず表現活動に必要な知識や技術を習得できる機会として、SDGsゴール4で示される「包摂的な学習環境の提供」への貢献につながるよう意識して取り組んだ。



札幌市林間学校

(青少年山の家)

小学生を対象に、1～2年生コース、3～4年生コース、5～6年生コースに分け、雪滑りや雪基地づくりなど雪を使った遊びや植物観察のほか、炊事体験を実施し、年齢に応じた課題に取り組みながら自然の魅力や大切さを伝える機会とした。プログラムの中でも、炊事体験はSDGsゴール11の「災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す」ことへの貢献にもつながるよう、自然災害時における火の使い方や器の作り方を学び、北海道ならではの冬の防災の取り組みとなったため、SDGsとの関連性が特に高い事業となった。



「N活～NPOができること～」

(札幌エルプラザ公共4施設)

NPOと学校が相談・協力し合える関係を作るため、教育関係者を交え、学校が抱えるニーズや課題感をテーマとしたディスカッションを開催したほか、学校教育の内容やフリースクールの仕組みを相互に知るための講座を実施した。

SDGsゴール4の「全ての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす～教育を修了できるようにする」やゴール17の「効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップの奨励・推進」の実現を意識し、学校には地域と連携した新たな活動を知る機会を、NPOには学校での活動の検討や教育関係者に活動を広報する機会を提供することができた。



2024さっぽろ雪まつりつどーむ会場 すべり台等制作・運営業務

(イベント事業)

「さっぽろ雪まつり つどーむ会場」の屋外アトラクションの制作及び運営を行った。当事業は、新型コロナウイルスが蔓延した令和2年度以降中止としており4年ぶりの開催となったが、委託者や札幌市、雪まつり実行委員会などと密に連携を図り、札幌の魅力を多くの人に伝えることができたとともに、SDGsゴール17の「効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップの奨励・推進」の実現につながる取り組みとなった。



5. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況

こども育成課

札幌市児童会館・ミニ児童会館

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①札幌まなびのサポート事業の実施をととした居場所の確立	①市内40会場での学習支援を実施。生活保護受給世帯・就学援助受給世帯の中学生556名が参加した（令和4年度比62名増）。従来の学習支援やレクリエーション活動のほか、仕様書外のキャリア体験事業などを試行実施し、将来的な学習事業のあり方につながるよう検討を進めた。
		【施設運営等事業】 ①子どもをまんやかに据えた、子ども視点の児童会館運営を行う。 ②敷居の低い施設を目指して～福祉機能の強化を図る。 ③あそびや体験活動機会の充実を図る。 ④地域連携の再構築を図る。 ⑤時代に求められるニーズの把握と活用の検討を行う。	①子ども運営委員会が企画運営を担う事業の実施を通じて活動の充実を図るとともに、日常活動や施設運営においても子どもの意見を反映するなど、子どもを主体とした取り組みを進めた。 ②日々のコミュニケーション機会を通じて児童や保護者の状況を適切に把握することに努め、小学校や子どもコーディネーターなど関係機関と連携して必要な支援を行った。 ③キャンプ事業をはじめとした自然体験活動や人形劇の観劇等の文化体験活動を提供するなど、財団のスケールメリットを活用し、多様な体験機会を提供することに努めた。 ④町内会活動等の再開に合わせ、地域のお祭りへの出展や地区センターとの連携事業を実施するなど、改めて地域内での友好な関係構築に向けた取り組みを行った。 ⑤見守りシステムや統計システムの改修を通じて利用者の利便性向上ならびに職員の事務効率向上に努めた。利用者からの要望がある児童クラブ入会手続きの電子化については引き続き検討を行った。
数値目標	共通目標	①利用者総数 3,300,000人 ②事業プログラム参加者総数 550,000人 ③利用者アンケート(総合満足度) 80%以上	①3,673,037人 (111.3%) ②681,411人 (123.9%) ③86.7%
	部門目標	①地域交流事業の実施 総数 400回 ②地域ボランティアの受入れ回数 総数 2,400回 ③子どもの意見を反映した事業運営 総数 2,400回 ④自然体験活動の実施 総数 2,000回 ⑤利用者に対する相談援助業務 ケース会議数 2,400回	①810回(202.5%) ②4,961回(206.7%) ③3,446回(143.6%) ④5,183回(259.2%) ⑤2,883回(120.1%)

重点目標		内容	達成状況
		【地域活動等事業】 ①子ども・若者支援推進のため、行政機関や関係組織との連携を基礎とした取組を実施	①札幌まなびのサポート、くらし支援コーディネート、ヤングケアラー相談サポートの受託事業を軸として、各種支援機関と連携し事業運営を行うことで、参加者増や巡回先の拡大などにつながった。さらに各事業及び施設間において支援ケースの共有を行い、当財団のスケールメリットを活かし横断的な支援を展開した。
		【施設運営等事業】 ①外部組織等との連携強化による専門性および即時的支援の強化を図る。 ②業務管理の強化により部門内の施設及び事業の効果の最大化を図る。	①体験機会創出事業「いとこんち」では、関係NPO団体と協働することで個別ニーズに応じた多種多様な体験機会の提供と即時的支援を行った。また、中島児童会館を中心としたモデル事業の実践をとおして地域及び関係機関とのネットワークの構築に取り組んだ。 ②管理面では、部門内での業務整理を行いムダ・ムラをなくし注力すべき事柄を明らかにした。その結果、防犯設備や施設維持管理等、持続的に業務を継続していくための検討と準備を中期的視点で進め、今後の運営の基礎を固めることができた。
数値目標	共通目標	①事業プログラム参加者総数 4,000人 ②利用者アンケートにおける満足度 90%	①4,548人（113.7%） ②96.1%
	部門目標	各種企業・団体等新規関連ネットワーク団体数 15団体	12団体（80.0%）



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①千歳市及び周辺市町村の資源の発掘及び連携。	①地域住民による「バイオリン演奏会」や「人形劇」、また、千歳アイヌ協会の協力による子どもたちへの千歳の文化伝承事業など、新たに創出したつながりによる事業を実施することができた。そのほか、昨年度に引き続き支笏湖での「カヌー体験」や公立千歳科学技術大学の学生プロジェクトグループ『理工工房』と実施した「科学であそぼうプロジェクト」など、地域資源を活用した事業に継続して取り組むことができた。
		【施設運営等事業】 ①子ども・若者を主体とした施設運営。（子どもの権利の推進） ②子ども・若者支援事業の推進。（福祉的機能の強化） ③地域とつながり、子ども・若者の居場所としての認知度の向上。	①子ども運営委員会活動の定着化が進み、メンバー同士で意見を出し合いながら、子どもたちが主体となった事業を実施するなど、子どもたちの活躍の場を増やすことができた。 ②民生委員との合同子育てサロンの実施など、地域で子育て家庭の支援や情報共有が進んだ。また、千歳市青少年会館では、若者やその家族などに向けた就労支援などの事業を展開し、他部門のノウハウを千歳市に還元する機会を築くことができた。 ③児童館運営協議会の設置により、地域の子ども・子育て家庭を支える思いの共有が進み、次年度以降の発展が期待できる。また、千歳市児童館・学童クラブ合同まつりを5年ぶりに開催し、多くの方に子ども・若者の活動拠点として認知してもらえることができた。
数値目標	共通目標	①利用者総数 ・児童館・学童クラブ 201,800人 ・青少年会館 13,500人 ②事業プログラム参加者総数 ・児童館・学童クラブ 11,440人 ・青少年会館 10人 ③参加者アンケートにおける満足度 ・児童館・学童クラブ 90% ・青少年会館 90%	① ・217,680人(107.9%) ・13,740人(101.8%) ② ・9,822人(85.9%) ・7人(70.0%) ③ ・児童館・学童クラブ 92.4% ・青少年会館 77.8%
	部門目標	①連携事業に向けた千歳市周辺企業等への訪問 28団体 ②企業・団体等との連携事業参加者数 延べ250人 ③子ども運営委員会企画事業の実施数 38回 ④若者支援における協力関係の構築を目的とした関係機関等への訪問 10件 ⑤自主事業実施件数（事業所内部門連携）3件	①29団体(103.6%) ②1,547人(618.8%) ③62回(163.2%) ④9件(90.0%) ⑤2件(66.7%)

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①子ども文化の創造と発信による新たな可能性 ・外部からの依頼事業、連携事業 ・専門アーティストとの協働	①「やまびこ座開館35周年記念事業（北のおばけ箱2）」、「広域文化支援ネットワーク形成事業」等で、専門アーティストや外部団体と連携した事業展開を行うことができた。新たな取り組みを進めることによって、これまで劇場を利用したことがなかった市民の観劇に繋げることができた。
		【施設運営等事業】 ①夢と笑顔と人が集いあう劇場づくり ②共生社会の実現に向けた劇場運営 ③子ども文化の裾野を広げていくための人材育成の取組 ④子どもたちへの芸術の鑑賞及び体験機会の拡充 ⑤こぐま座、やまびこ座、中島児童会館の3施設連携による事業の拡充	①劇場が地域に開かれた場所として人々の日常に溶け込めるよう、観賞の場としての機能に加えて、様々な年代の方の自己実現の場、子ども文化に彩られた創造の場となる事業を実施することができた。 ②文化芸術の側面から多様な価値観を認め合うインクルーシブな共生社会の実現を目指し、「パペットアートヴィレッジ」や「舞台手話通訳者養成講座」を実施した。関係団体と連携し、今後の発展的な事業展開を確認することができた。 ③当該目標を施設運営の根幹に据え、各年代を対象とした人形劇・児童劇・伝統芸能などの講座の実施と劇団支援を推進した。 ④子どもたちの日常において、観劇や文化芸術に接する機会を拡充した。両劇場での公演に加え、平日の団体観劇やアウトリーチ事業、児童会館への出張公演や貸切公演を積極的に実施した。様々な事情で劇場に足を運ぶことが難しい子どもたちにも文化体験の機会を提供することができた。 ⑤子どもに携わる市民の学びや交流を目指した「こどものまなび塾」を開講した。子ども文化の拠点地域に広げることを意識した部内連携事業として、様々な年代の受講者と学びを深めた。講座終了後も受講者が自主グループとして継続して活動をする成果を得た。
数値目標	共通目標	①利用者総数 70,000人 ②事業プログラム参加者総数 24,000人 ③利用者アンケートにおける満足度 90%	①82,645人(118.1%) ②27,754人(115.6%) ③99.4%
	部門目標	①新規人形劇団の誕生及び育成 3劇団 ②年間上演日数及び公演数 上演240日・公演400回 ③障がい児との文化芸術推進事業の実施 3事業	①5劇団(166.7%) ②上演273日(113.8%) 公演401回(100.3%) ③3事業(100.0%)

若者支援事業課

札幌市若者支援総合センター 札幌市若者活動センター

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

		内容	達成状況
重点 目 標		【地域活動等事業】 ① 若者の住居支援事業 「いとこんち」 ② ヤングケアラー交流サロン (こども事業課との協働事業)	① 一般社団法人ソーシャルペダゴジーネットとの協働により、リビングカーの活用をとおして、多種多様な体験活動の機会や物資等の提供が可能となり、若者が必要とするサポートにつなげることができた。 ② ヤングケアラー当事者への支援として電話やLINEによる相談及び定期型、出張型サロンを実施した。スクールソーシャルワーカー、家庭児童相談所などから若者の情報を得て本人との関係構築を図り、必要に応じた支援を継続的に行った。
		【施設運営等事業】 ① 若者の多様なニーズや価値観にユースワーカーが寄り添い、多くの人々が集い、人と人とのつながりによって魅力ある Youth+を目指す。 ② Youth+の「社会的役割」や「質的評価」の認知を広めるためのユースワークを実践する。子ども・若者当事者のアドボカシーの推進ならびに地域とともに実践するユースワークを推進する。	① ユースワーク（以下YW）を語ることができる職員の育成に注力した。また、事業実施に向けては、ユースワーカーとして必要とするスキル知識の習得を目標に掲げ、継続した取り組みの中で力量を高めた。また、職員一人ひとりの個性を活かしたYWに取り組んだ。 ② 「大通交流拠点YW事業」を受託し、若者との関係構築を継続的に進めたほか、学校訪問及び相談業務等で培った関係性から、プログラム提供の依頼が増加しYWの認知を広げる機会となった。また、若者の声を集約し、X（旧Twitter）を活用し若者のエピソードを継続的に発信した。そのほか、大通交流拠点YWで出会った若者たちにアンケートを実施し現状調査を行った。地域とともに実践するYWについては、居場所拡充事業における独自指標に基づき、Youth+主導の居場所の運営から協働型運営等ステップアップを目指し、地域や関係機関との連携を深めた。
数 値 目 標	共通 目 標	① 利用者総数 230,000人 ② 事業プログラム参加者総数 40,000人 ③ 利用者アンケートにおける満足度 98%	① 247,692人（107.7%） ② 45,733人（114.3%） ③ 99.0%
	部門 目 標	① 利用証の発行を受けた若者等登録者数 16,000人 ② 若者等登録者の延べ利用者数 200,000人 ③ 新規に相談を受けた自立支援登録者数 400人 ④ 進路決定及び適切な支援機関につながった困難を有する若者数 345人 ⑤ 交流促進プログラムに参加した若者の延べ人数 5,000人 ⑥ 社会活動および育成プログラムに参加した若者の延べ人数 600人	① 13,470人（84.2%） ② 191,704人（95.9%） ③ 353人（88.3%） ④ 267人（77.4%） ⑤ 7,747人（154.9%） ⑥ 2,650人（441.7%）

		内容	達成状況
重点 目標		【地域活動等事業】 ①魅力ある施設周辺フィールドを生かした自然体験プログラムの提案等、PR活動を進め、財団内外の新規、リピートの利用促進を図る。 ②関連NPO団体との連携体制を強化し、効率的な施設運営、事業展開を目指す。 ③自主事業の拡充や幅広い分野からの指導事業受託を図る。 ④収支の適正化を図るとともに、補助金等の獲得や外部事業の受託を促進する。	①ホームページのリニューアルやSNSを使った事業周知など広報活動に取り組んだことにより、令和4年度に比べ利用団体数が7件増加した。 ②NPO団体と連携し、効率的かつ効果的に利用者に満足いただく方法として新たな体験プログラムやクラフトプログラムの開発を進めた。 ③コロナ禍で中止していた滝野自然学園及びキャンプ施設でのキャンプ事業を4年ぶりに多数再開し実施した。定員を超える申込みをいただいた事業が多くあった。 ④外部事業受託については、少数となり目標には至らなかったが、収支の適正化に向けて、獲得を目指す補助金等の洗い出しを進めた。
	共通 目標 数値目標	① 利用者総数 延べ2,700人	①5,131人(190.0%)
		② 事業プログラム参加者総数（主催事業）1,000人	②1,420人(142.0%)
		③ 参加者アンケートにおける満足度95%	③99.8%
数値 目標	部門 目標	① 財団内利用件数 45件	①42件(93.3%)



		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①市内の自然環境や動植物に関するセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供する。 ②地域住民との関係性を深めるための地域活動への参加する。	①セミナーをとおして、自然環境や生物多様性について学びを提供した。また、参加者にとってより有意義になるよう次年度以降の自然環境保全の振興に関わるプログラム検討を進めた。 ②教育園及び白川地区の水源地整備（除草、水路整備）を行い、地域との関係性を築いた。
		【施設運営等事業】 ①小中学校をはじめとする体験学習への安定的な機会提供および学習機会の強化を図る。 ②教材用生物の幼保小中学校への安定的な供給と事後支援の充実を図る。 ③SNS、HPを活用した小中学校に対する事前および事後学習の充実を図る。 ④利用者のターゲットごとに必要とする情報を整理、検証し、利用促進につながるリーフレットを作成する。 ⑤利用者が活用できる日常活動プログラムの充実を図る。 ⑥特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携を図る。	①小中学校を対象として「体験農場」を実施した。令和5年度は76校に体験機会を提供することができ、目標値よりも11校多い結果となった。 ②ヘチマ・稲・カイコ・フタホシコオロギなどの生物教材を、各教育施設に供給した。供給後は事後支援のほか、次年度以降の安定的な配布に向けた環境整備に努めた。 ③体験農場で作物の生育状況をオンラインで共有し、教育現場における補助教材としての一翼を担うことができた。 ④教育園のリーフレット内の園内マップ情報を一新し、HP上にて周知を図った。 ⑤利用者が気軽に参加できる「簡単ロビー工作」を実施し、教育園の利活用の幅を広げた。 ⑥北方コンソーシアムとしての運営の初年度であったことから、役割分担の詳細等を確認しながら進めた。お互いの強みを活かし、教育園の利用価値の向上を目指した運営を行うことができた。
数値目標	共通目標	①利用者総数 8,200人 ②事業プログラム参加者総数 600人 ③参加者アンケートにおける満足度 91%	①8,587人(104.7%) ②938人(156.3%) ③99.2%
	部門目標	①小中学校を対象とした体験農場実施校数（延べ数）65校2,600人 ②学習館入館の料金収入 120千円	①76校3,038人(116.8%) ②115,800円(96.5%)

		内容	達成状況
重点目標		<p>【地域活動等事業】</p> <p>①札幌市児童会館・千歳市児童館利用の児童に対し、野外体験活動・環境教育プログラムの機会を提供する。</p> <p>②地元地域(定山溪地区及び札幌市南区)の児童に対し、野外体験活動・環境教育プログラムの機会を提供するほか、協働でプログラムの開発などを行う。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>③定山溪自然の村の特色ある環境資源を最大限活用し、自然体験活動で気づきと学びの仕掛けづくりを進め、自然から学ぶ機会を提供する。</p> <p>④自然体験活動をととして、豊かな家族の時間、グループの時間等、全ての定山溪自然の村利用者の利用ニーズと充実した価値のある時間を提供する。</p> <p>⑤自然体験活動をととして豊かな心と人の育成を行う。</p> <p>⑥地域住民、地域団体、関係団体と連携し地域に根差した運営を行う。</p> <p>⑦定山溪自然の村の活動促進に協力してくれる人材の活動を支援する。</p> <p>⑧施設の利用促進を図る。</p> <p>⑨利用者が安全安心に利用できるよう点検強化や小規模修繕等の施設管理を計画的かつ効率的に行い、限りある予算の中でより良い成果を得られる運営を行う。</p>	<p>①火起こしや宿泊体験活動を提供したほか、各会館のニーズに合わせたプログラム提供を行い、今後の事業の広がりが見えた。</p> <p>②定山溪小ミニ児童会館と連携し、五感を使った体験活動や環境について考える機会を創出した。また、新たな試みとして南区児童会館子育てサロンへのアウトリーチ事業として自然素材の遊具や焚き火などの幼児親子への野外体験プログラムを提供した。</p> <p>③・④・⑤「気づきと学びプログラム提供事業」において、「昆虫大発見」「笹舟チャレンジ」など自然の村の環境を活かした利用者が主体的に楽しめるプログラムを新たに創出し、好評の声を得た。キャンプ活動を楽しむだけではなく、自然や体験あそびから「『気づきや学び』を持ち帰ることができる」コンセプトを達成できた。</p> <p>⑥日頃から地域に出向き連携活動を進めたほか、地域の方々にも運営協議会委員として参画いただき、日頃の運営を効果的に進めた。また、関係団体との連携の集大成として、地域・地元のアウトドア団体・企業に協力をいただき「定山溪キャンプフェス」を実施し、地域資源の発信等成功を収めることができた。</p> <p>⑦新型コロナにより休止していたボランティアスタッフ育成事業を3年ぶりに実施することができ、学生・社会人・シニア層等の様々な年代の方に活躍いただき各事業を実施することができた。</p> <p>⑧各種団体からの問い合わせが増えてきており、利用団体数・利用料金収益も増加傾向である。現状把握を進めて、SNS等を利用し様々な層に対するアプローチを今後さらに進める。</p> <p>⑨日頃から施設・備品等の維持管理を徹底し、修繕等の費用を減らすことができた。その他所管局と情報交換を密にし、修繕計画について検討を進めることができた。</p>
	共通目標	<p>①利用者総数 18,800人</p> <p>②事業プログラム参加者総数 4,500人</p> <p>③参加者アンケートにおける満足度 98%</p>	<p>①19,411人 (103.3%)</p> <p>②6,548人 (145.5%)</p> <p>③98.5%</p>
	数値目標	<p>①気づきと学びの事業セルフプログラムにおける満足度 85%</p> <p>②セルフモニタリング調査(実施件数) 400件</p> <p>③実践型森林環境教育に関わる事業及び体験活動の推進(参加人数) 2,000人</p> <p>④利用料金収益 19,093千円</p>	<p>①95.0%</p> <p>②400件 (100.0%)</p> <p>③3,156人 (157.8%)</p> <p>④20,673千円 (108.3%)</p>

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①体験機会を保障するため、より多くの対象に自然体験・生活体験プログラムを提供する。	①空き室活用事業では、初めて当施設を利用するきっかけとなり、大人も子どもも宿泊学習事業では、昆虫をテーマとした内容で生物多様性を学んだ。Re滝野事業では、体験不足と言われる小学5年生から中学2年生を対象に各種体験プログラムを提供した。
		【施設運営等事業】 ①利用増へ向けて、利用者・参加者に寄り添う姿勢を第一に、体験プログラム・利用環境・利用支援の改善を推進し、訴求力を向上させる。 ②拠点施設として、体験プログラムの効果を検証し発信することで、情報発信力を強化する。 ③利用に伴う収益の回復へ向けて、効率的に営業活動を推進する。 ④共にウェルビーイングな社会を作っていくパートナーとして、部門内外、他団体、地域との関係性について構築・発展を目指す。 ⑤デジタルリソース・データを最大限活用し、効率的・効果的な運営を目指す。	①各種新規プログラムを開発し、野鳥観察プログラム、防災に関わるプログラムを試行実施した。また、動画コンテンツの見直し、利用説明会をオンライン方式で実施するなど、利用環境の向上を図った。 ②北海道教育大学と連携し、Re滝野事業における参加児童、保護者を対象にアンケート調査を実施し検証を行った。また、検証結果を踏まえこども事業課と連携し情報の共有を行った。 ③利用実績のある学校団体、一般団体への利用促進に関わる広報活動を実施した。 ④野外活動教育研究会との連携を深め、札幌市林間学校の共催実施を行ったほか、滝野すずらん丘陵公園事業への協力及び滝野町内会のお祭り事業への協力等、積極的に他団体等との関係性の構築を進めた。 ⑤管理運営情報のクラウド化を行うことで、紙面削減と情報共有の迅速化を図った。
数値目標	共通目標	①利用者総数 50,000人 ②事業プログラム参加者総数 14,000人 ③参加者アンケートにおける満足度 97%	①62,466人(124.9%) ②13,716人(98.0%) ③95.0%
	部門目標	①利用のしやすさに対する満足度 95% ②職員の接遇満足度 99% ③活動プログラムの満足度 98% ④実利用人数 30,000人 ⑤閑散期の一般利用団体数 30団体 ⑥市内小学校を除く宿泊団体数 100団体 ⑦省エネルギーの推進による電気・灯油・水道使用量 ▲5%	①91.0% ②96.0% ③94.0% ④39,675人(132.3%) ⑤27団体(90.0%) ⑥191団体(191.0%) ⑦▲25%

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

		内容	達成状況
重点目標		【地域活動等事業】 ①次の時代を見据えて受託事業等に取り組み、ノウハウの蓄積や国や関係機関との連携を意識した事業展開を図る。	①新規受託した女性スタートアップ人材育成事業では、男女共同参画センターの強みであるジェンダー視点を生かすことで当財団ならではの事業展開を行うことができた。また、助成事業の採択により、全国の先進的な団体や中央省庁との新たなつながりが生まれ、ネットワークやノウハウを蓄積することができた。
		【施設運営等事業】 ＜男女共同参画センター＞ ・ロールモデルや好事例の発掘に向けて、人が集まり、コトが起きる場を創出する。 ＜市民活動サポートセンター＞ ・人材確保や後継者不足を解決するため次世代層、既に活動を行っている方の支援を行う。 ・市民協働による参加型事業の積極的実施、情報交換・共有の場の提供を進め運営力強化を支援する。 ＜環境プラザ＞ ・SDGsやカーボンフリーといった環境問題への関心がより高まるタイミングをチャンスと捉え、こうした大枠のテーマに沿った情報提供を軸として、幅広い層に対するアプローチを行う。 ＜情報センター＞ ・エルプラザの各施設へ繋げる媒介者として、市民に情報、知識、学びの機会を提供する。	＜男女共同参画センター＞ ・起業家や育休取得パパ等、24件の様々なロールモデルを発信したことで、参加者が多様なロールモデルと出会い新しい気づきを得られる機会を提供した。 ＜市民活動サポートセンター＞ ・NPOインターンシップでは、参加者主体の活動をとおして、後継者不足・人材確保の課題解決の機会に繋がった。また、高校・大学で市民活動についての出張講座を実施し、まちづくり活動の裾野を広げる機会に繋がった。 ・市民活動団体の協力を得ながらサロン事業やマルシェ事業を実施し、団体同士の交流の場・情報共有に繋がった。 ＜環境プラザ＞ ・SDGsに関連するテーマに即した事業を外部団体・個人と連携して実施することで、専門的な内容で市民に伝えとともに環境プラザとのつながりも広げることができた。脱炭素をテーマとした新規見学アクティビティの開発については、ESDを専門に取り組んでいる外部団体と連携を取りながら進めた。 ＜情報センター＞ ・情報センターでの展示・事業をとおして、多くの利用者に情報発信を行うことで、学びの機会の提供と各施設の利用へ繋げることができた。
数値目標	共通目標	①利用者総数 462,000人 ②事業プログラム参加者総数 16,500人 ③利用者アンケートによる満足度 総合86%	①454,643人 (98.4%) ②15,712人 (95.2%) ③91.4%
	部門目標	①男女共同参画に関わるロールモデル、事例の発信 10件 ②市民活動啓発事業の実施/市民活動相談件数 9回/650件 ③環境活動の機会提供 55回 ④情報センター利用後、エルプラザの施設・事業を利用・参加した人数(アンケート回答数) 30人	①24件 (240.0%) ②9回 (100.0%) ③62回 (112.7%) ④65人 (216.7%)

重点目標		内容	達成状況
		【地域活動等事業】 ①社会的課題解決に向け、受託事業に加えて自主的事业を実施する。 ②「広報事業」の内容精査により財団内での役割を明確化し、財団全体のブランディングの方向性を検討する。 ③より多くの部門との連携を促進させ、業務の幅を広げるとともに、財団内での相乗効果を図る。 ④収支の適正化を図るとともに、補助金等の獲得や外部事業の受託を促進する。	①千歳事業所と連携した「カヌープログラム」や実行委員会形式で実施している「ミニさっぽろ」事業など、子どもたちの体験活動の場を提供する自主事業を実施した。 ②広報戦略を担当している総務課、「あそぼ」主務のこども育成課と情報を共有しながら、それぞれの役割を年度当初に確認して業務を進めることができた。併せて、財団広報PJを基軸として、あそぼキャラクター「あそぼっちゃん」の活用方法についてなどを検討した。 ③他課連携事業や活動支援事業等をとおして、こども育成課、事業課だけではなく、野外活動課や市民参画課とのかかわりを深め、財団全体としての相乗効果を図ることができた。 ④収益率を踏まえた新規の外部事業を多く受託することにより、収支の改善を進めることができた。
数値目標	共通目標	①事業プログラム参加者総数 主催事業参加者数 3,120人 ②利用者アンケートにおける満足度 93%	①2,688人(86.2%) ②96.0%
	部門目標	①イベント収益総額7,600万円 ②他課連携事業回数10回 ③自主事業実施回数2回	①7,827万円(103.0%) ②10回(100.0%) ③3回(150.0%)



あそぼっちゃん



6.各課（各施設）事業実施報告

(1) こども育成課【児童会館110館（指定管理事業）、ミニ児童会館89館（受託事業）】

事業区分	事業内容	時期等
体験機会 創出事業	「北エブロック児童会館体験創出事業 『里山教室こめこめくらぶ』 北方自然教育園の協力を得て田植え体験をはじめ、稲の生育観察・収穫・稲架掛け・脱穀精米・おにぎりづくりの全4回の体験を行い、農業と食のつながりから身近な自然との関係を学ぶ活動を展開した。	時期：6～12月 回数：計4回 会場： 北方自然教育園 人数： 83人（延べ）
	「札幌市新琴似児童会館50周年事業 『新琴似児童会館 ありがとう50周年！』 ～これからもずっとそばにいるよ～①お祝い会②おめでとう祭り」 新琴似児童会館開館50周年の記念事業として、お祝い会（式典）とおめでとう祭りを2週に分けて実施した。お祝い会においては、新型コロナウイルスが収束したことに伴い、地域の方や小中学校関係者を来賓に迎え、クラブ活動の成果発表や小学校のブラスバンドの演奏を行ったほか、人形浄瑠璃「あしり座」によるお祝いの舞やワークショップ体験を行った。翌週は保護者協力のもとお祭りを実施した。子ども運営委員にとっては初めての大規模事業を企画、運営する機会となり、戸惑いながらも、自信をつける取り組みとなった。	時期： ①10/21②10/28 会場： 新琴似児童会館 人数： ①307人 ②133人 計440人
	「山の手児童会館お別れ会」 合築化に伴い、山の手小学校内へ移転するため、昭和61年の開館以来37年間過ごした施設に対して、参加者全員で思い出を振り返り、楽しい時間を共有することを目的として実施した。子どもたちの活動の成果発表の場を設け、保護者や地域の方へ児童会館の活動の周知の機会とすることができた。また当日は、元児童クラブ員など地域住民の参加も多くあり、各々が児童会館で過ごした日々を懐かしんでいた。	時期：3/16 会場： 山の手児童会館 人数：87人

<利用状況>

(人)

区分	開館日数 及び回数 (延べ数)	人 数	利 用 人 数 の 内 数					
			幼児	低学年	高学年	中学生	高校生	一般
児童会館	32,150	2,276,532	106,074	1,546,325	374,293	79,532	28,260	142,048
ミニ児童会館	26,257	1,396,505	1,699	1,162,571	224,672	222	105	7,236
占用利用	9,644	119,073	4,021	19,749	23,839	22,094	2,894	46,476
総 利 用		3,792,110	111,794	2,728,645	622,804	101,848	31,259	195,760
前年度比		3,427,869 (110.6%)	113,984 (98.1%)	2,493,144 (109.4%)	519,689 (119.8%)	85,578 (119.0%)	28,525 (109.6%)	186,949 (104.7%)

<児童クラブ在籍数>

(人)

区分	令和5年度 4 月末日現在の在籍数							延べ 入会	延べ 退会	令和6年 3 月末日現在の在籍数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
在籍人数	6,601	6,148	4,866	3,106	1,411	605	22,737	26,309	3,281	7,131	6,429	5,002	3,173	1,443	621	23,799

4 月末日現在の在籍数の比較(前年度 22,436人・前年比 101.3%)

<障がい児受入れ数>

(人)

内訳

区分	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	クラブ	直来
普通学級	165	171	148	131	57	38	710	704	6
特別支援学級	115	124	134	97	66	41	577	559	18
特別支援学校	4	1	4	1	2	0	12	12	0
計	284	296	286	229	125	79	1,299	1,275	24

(前年度 1,197人・前年比 108.5%)



(2) こども事業課

事業区分	事業内容	時期等
青少年活動 支援事業	<p>「札幌まなびのサポート事業『まなべえ』」</p> <p>生活保護受給世帯及び就学援助利用世帯の中学1～3年生を対象に実施。居場所機能と学習支援の両輪で参加中学生のフォローに当たっている。参加中学生の弟・妹が当課主催の別事業に参加し、中学進学時に当事業に登録するケースが複数あり、成長に伴う切れ目のない支援へつながった。また、事業紹介動画作成や中学校及び保護課へ周知し「体験会」を実施するなど、学習支援を必要とする新規層へ働きかけ、参加増を図った。</p>	<p>時期：通年 回数：週1回 会場：市内40会場 登録中学生556人 登録サポーター238人</p>
	<p>「子どものくらし支援コーディネート事業」</p> <p>経済的な問題だけではなく、様々な困難を抱えている子どもや世帯を早期に発見し、必要な支援につなげるコーディネーターを全市に配置し、関係機関と連携しながら相談援助活動を行った。令和5年度は未就学児のいる世帯への支援の充実に向けて、認可外保育園の伴走型支援についてのニーズ調査も併せて行った。</p>	<p>時期：通年 新規相談受理数253件 継続支援ケース376件</p>
	<p>「ヤングケアラー相談サポート事業」</p> <p>ヤングケアラーやその家族、職員や地域関係者が安心して相談できる環境整備及び必要な支援につなげるため相談窓口を開設。相談内容は「学校や進路」「生活環境」「家族・きょうだい」等が中心で延べ1,313件の相談があった。本人たちの居場所作りとして実施した交流サロンにおいて令和5年度は、定時制高校やYouth+などへ出張し開催することでヤングケアラーの周知拡大や新規参加者獲得となった。</p> <p>①【相談支援】 日時：月～土 方法：電話・SNS・対面・オンライン</p> <p>②【交流サロン】 日時：定期開催型（毎月第2土曜） 出張開催型（不定期開催・適宜） 方法：対面・オンライン 回数：計24回（定期型12回、出張型12回）</p>	<p>①人数：1,313件（延べ）</p> <p>②人数：96人（延べ）</p>



(3) 千歳事業所【児童館10館・学童クラブ18箇所（受託事業）、青少年会館（指定管理事業）】

事業区分	事業内容	時期等
千歳事業所 主催事業	「ちとせ森のがっこう」 多様な体験活動機会の提供を通じ、千歳市における財団認知度の向上を目的に実施。滝野自然学園をフィールドとし、千歳市児童館・学童クラブの利用児童とその保護者が参加し川遊びや自然散策など、野外活動プログラムを実施した。	時期：7/30、8/6 会場： 滝野自然学園 人数：35人
	「千歳事業所主催講演会事業 夢を極めるってどういうこと？」 子どもたちへ、好きを極めチャレンジしていくことの大切さや面白さを伝えることを目的に、気球を使った宇宙遊覧実現に向け活動している株式会社岩谷技研の岩谷圭介氏を講師にお迎えし実施した。岩谷氏が今もなおチャレンジを続ける姿に、子どもたちは目を輝かせ話を聞く様子があった。また、保護者や支援者がどんな姿勢で子どもの思いに寄り添うことが必要であるか、ヒントに出会う前向きな時間となった。	時期：3/16 会場： ANAクラウン プラザホテル 人数：66人
地域交流 事業	「アイヌ文化にふれてみよう」 千歳アイヌ協会の協力のもと、アイヌの様々な文化に触れる機会として実施した。千歳市しゅくばい児童館は、昨年度からのレベルアップとして古式舞踊、食文化の理解、文様刺繍を実施した。千歳市しなの児童館では、新規事業として歌や舞踊を実施した。千歳の歴史のひとつであるアイヌ文化に触れる機会となり、知識や理解を深めることができた。	時期：9～1月 回数：計4回 会場：各児童館 人数： 186人（延べ）

<利用状況>

・児童館・学童クラブ

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童館	9,269	7,841	8,952	9,720	9,138	8,497	8,251	7,699	8,061	6,603	6,886	9,931	100,848
学童クラブ	11,011	11,129	11,949	10,671	9,866	10,077	10,302	9,090	8,463	8,317	7,533	8,424	116,832
総 計	20,280	18,970	20,901	20,391	19,004	18,574	18,553	16,789	16,524	14,920	14,419	18,355	217,680

(前年度比)

児童館	前年度利用人数	86,659人	前年比116.4%
学童クラブ	前年度利用人数	107,611人	前年比108.6%
総計	前年度利用人数	194,270人	前年比112.1%

・青少年会館

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総利用者数	814	1,160	1,335	856	845	1,238	1,128	1,618	1,322	925	1,372	1,127	13,740

(前年度比)

青少年会館	前年度利用人数	13,509人	前年比101.7%
-------	---------	---------	-----------

(4) こども劇場課【やまびこ座・こぐま座（指定管理事業）】

事業区分	事業内容	時期等
施設管理 運営事業	<p>「障害者等による文化芸術活動推進事業 パペットアートヴィレッジ」</p> <p>参加対象を障がい等のある小学生から高校生までの子ども、障がいのある子どもと共に表現活動をすることに興味がある市民とし、中島児童会館、こぐま座、中島公園をフィールドに「共にあそぶ・共につくる」をテーマにした表現活動・創作体験プログラムを実施した。12/17はこぐま座ホールで活動の報告と人形劇の発表を行った。</p>	<p>時期： 10/15、11/26 12/3、12/17 会場： 滝野すずらん丘陵公園、中島公園、中島児童会館、こぐま座 参加人数： 293人（延べ）</p>
	<p>「ゆきあかりin中島公園」</p> <p>さっぽろ雪まつり開催期間中に中島公園を訪れる市民や観光客に向けて、人形劇公演や体験ワークショップなどの事業を実施した。札幌の人形劇文化と、中島公園のフィールドと自然（雪）を活用した札幌ならではの遊びを体験し、中島児童会館とこぐま座の歴史や取り組みを広く知っていただく機会となった。児童会館と連携しながら自然環境や立地を活かして事業を展開することで、劇場の特色ある取り組みをPRすることができた。</p>	<p>時期：2/10、11 会場： こぐま座、中島児童会館前広場 人数： 1,312人（延べ）</p>
	<p>札幌市内児童会館人形劇クラブ育成事業 「世界人形劇の日 こどもフェスティバル 札幌市児童会館」</p> <p>札幌市内の児童会館人形劇クラブ（6館）とこども劇場課・こども育成課連携研修「人形劇ゼミナール」で誕生した職員の劇団（2劇団）による連続公演と交流会を開催した。また、公演のほかに人形劇クラブの活動のパネル展も行い、子どもたちの取り組みや可能性を広く発信した。連携事業の実施により子ども文化の裾野を広げることに繋がった。</p>	<p>時期：3/20 会場：やまびこ座 人数：439人 ※YouTube配信 約800回再生</p>

<利用状況>

・こどもの劇場「やまびこ座」

区分	件数（件）	人数（人）	稼働率
ホール	596	22,386	貸室利用総人数 34,533 人 利用率 54.8%
会議室	375	2,056	
研修室	411	5,161	
美術工作室	502	4,930	
ロビー・展示室・図書コーナー	－	12,867	
研修・見学	－	173	
その他（アウトリーチ事業、屋外事業等）	－	2,234	
総利用数	1,884	49,807	

（前年度比）

利用件数 前年度：2,025 件 前年比：93.0%

利用人数 前年度：43,090人 前年比：115.6%

項目		人数・回数等
観劇者数	無料	1,860
	招待	1,746
	有料	11,463
	合計 (a)	15,069
出演者の数（含むリハーサル） (b)		7,317
出演者観劇者総数（人） (a+b)		22,386
上演回数（回）		201
上演日数（日）		138
仕込み・リハーサル・研修日数（日）		113
上演1回あたりの観客数（人）		75

（前年度比）

利用人数 前年度：21,316人 前年比：105.0%



・こども人形劇場「こぐま座」

項目		人数・回数等
観劇者数	無料（人）	1,771
	招待（人）	360
	有料（人）	6,851
	合計（人） (a)	8,982
出演者の数（含むリハーサル）（人） (b)		1,911
出演者観劇者総数（人） (a+b)		10,893
研修・見学 (c)		21,942
利用者総数 (a+b+c)		32,835
上演回数（回）		200
上演日数（日）		135
仕込み・リハーサル・研修日数（日）		220
上演1回あたりの観客数（人）		44.9

（前年度比）

利用人数 前年度：24,851人 前年比：132.1%

(5) 若者支援事業課【若者支援施設5館（指定管理事業）】

事業区分	事業内容	時期等
交流促進事業	<p>「アウトリーチ推進事業カフェ部」</p> <p>ユースワークを必要とする若者に早期に出会うため、リビングカーを用いて「食」を介した学校や家庭以外の居場所を提供した。拠点型の会場（もみじ台・中島・真駒内）に継続して参加していた中学3年生たちが進路を報告のため参加した際、中には高校受験に失敗した若者もいたが、カフェ部で出会った友人たちに励まされ、帰り際には笑顔になっている様子が見受けられた。また、ヤングケアラーに該当すると思われる若者や不登校状態にある若者の居場所創出と地域の大人たちとの交流を目的にカフェ部終了後に、ユースワーカーと若者が地域の子ども食堂（あじさい食堂）につながり、参加者は楽しく過ごしていた。</p>	<p>時期：4～3月 回数：計128回 会場：札幌市内児童会館 人数：1,247人（延べ）</p>
	<p>「星槎高等学校軽音楽部ライブ」</p> <p>アカシアの貸室を活用して部活動を実施している中で、3月の高校卒業を記念したライブイベントを実施したいとの希望が上がり、実施に至った。部として初めてのライブであったが、ユースワーカーが機材面や、会場運営活動をサポートすることで演奏に集中することができ、若者たちは大きな達成感を得ることができていた。同じ高校の卒業生も前座のパフォーマンスで参加し、場を盛り上げていた。学校の職員室に向けてオンライン配信を行い、会場に足を運ぶことが出来なかった職員もオンラインライブを楽しんでいた。</p>	<p>時期：3/18 会場：Youth+アカシア 人数：44人 ●若者33人 ●一般11人</p>
自立支援事業	<p>中学・高校教職員向けセミナー 「卒業後が心配な生徒に今できること ～ひきこもり・発達障がい視点から考える～」</p> <p>不登校・ひきこもり状態の未然防止を目的に、教員のスキルアップ及び学校と支援機関の連携強化を図るための研修を実施した。第一部「孤立を防ぐための支援・機関連携を考える」では若者当事者へのインタビューをメインに、第二部「連携の課題とその解決」では全体意見交換を行った。アンケート結果では「非常に満足」「満足」で100%を占め、続編のセミナーを望む声が多く寄せられた。</p>	<p>時期：12/26 会場：Youth+センター 人数：87人</p>



<利用状況>

(人)

内 訳		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
自立支援事業		917	1,993	3,372	4,642	5,839	6,849	8,069	9,292	10,667	11,894	13,160	14,503
(A)	若者	616	1,338	2,148	2,984	3,776	4,553	5,414	6,176	7,019	7,808	8,662	9,574
	一般	301	655	1,224	1,658	2,063	2,296	2,655	3,116	3,648	4,086	4,498	4,929
交流促進事業		2,185	4,171	6,115	8,110	10,132	12,043	14,172	15,972	17,592	19,483	21,245	23,269
(B)	若者	2,127	4,046	5,924	7,814	9,791	11,638	13,622	15,383	16,951	18,782	20,519	22,521
	一般	58	125	191	296	341	405	550	589	641	701	726	748
社会参加促進事業		534	1,157	1,885	2,397	3,198	3,937	4,969	5,636	6,384	6,801	7,319	7,961
(C)	若者	183	580	1,044	1,542	2,081	2,621	3,302	3,724	4,175	4,591	5,069	5,485
	一般	351	577	841	855	1,117	1,316	1,667	1,912	2,209	2,210	2,250	2,476
ロビー利用		2,376	5,379	8,529	11,727	15,874	19,304	23,005	26,583	29,459	32,453	36,003	39,650
(D)	若者	2,259	5,121	8,108	11,167	15,169	18,430	21,952	25,362	28,115	30,964	34,380	37,903
	一般	117	258	421	560	705	874	1,053	1,221	1,344	1,489	1,623	1,747
貸室利用		12,983	26,159	38,714	52,237	65,077	78,316	91,853	105,781	118,429	131,669	146,863	162,309
(E)	若者	8,936	17,948	26,438	35,895	45,026	54,205	63,906	73,540	82,615	92,693	104,180	116,221
	一般	4,047	8,211	12,276	16,342	20,051	24,111	27,947	32,241	35,814	38,976	42,683	46,088
合計(A+B+C+D+E)		18,995	38,859	58,615	79,113	100,120	120,449	142,068	163,264	182,531	202,300	224,590	247,692
(前年度合計)	若者	14,121	29,033	43,662	59,402	75,843	91,447	108,196	124,185	138,875	154,838	172,810	191,704
	一般	4,874	9,826	14,953	19,711	24,277	29,002	33,872	39,079	43,656	47,462	51,780	55,988
(前年度合計)		15,998	32,390	50,424	67,303	84,607	103,053	121,926	140,443	157,716	178,002	198,291	218,232
(前年度合計)	若者	11,267	23,281	35,768	48,595	61,361	74,701	88,797	102,583	115,985	131,564	147,893	162,870
	一般	4,731	9,109	14,656	18,708	23,246	28,352	33,129	37,860	41,731	46,438	50,398	55,362

※ 利用者数の合計は各事業ごとの利用者数の合計である。(例、Aさんが1日に貸室と社会参加促進事業を両方利用した場合、利用者数は2人になる。)

(前年度比)

	前年度利用者数 (前年度比)	
	若者	一般
自立支援事業	11,601人 (R4対比 82.5%)	5,590人 (R4対比 88.2%)
交流促進事業	16,725人 (R4対比 134.7%)	250人 (R4対比 299.2%)
社会参加促進事業	4,408人 (R4対比 124.4%)	2,677人 (R4対比 92.3%)
ロビー利用	26,554人 (R4対比 142.7 %)	525人 (R4対比 332.8%)
貸室利用	103,583人 (R4対比 112.2%)	46,319人 (R4対比 99.5%)
総利用者数	162,870人 (R4対比 117.7%)	55,362人 (R4対比 101.1%)



(6) 企画事業課【野外活動系事業（地域活動等事業）、滝野自然学園（自主事業）】

事業区分	事業内容	時期等
受託事業	<p>「クボタeプロジェクト」 株式会社北海道クボタが主催で、株式会社ノヴェロからの受託事業として、中央区児童会館4館を対象に農業体験を提供した。昨年度はコロナ禍によりオンラインでの実施となったが、今年度は滝野自然学園の畑にて野菜の苗の植え付け、草取りや水やり、収穫を体験することができた。</p>	<p>時期：5～9月 回数：計3回 会場： 滝野自然学園 人数： 105人（延べ）</p>
地域活動等事業	<p>「たきの森のがっこう」 小学生を対象とした自然体験事業として、自然の営みや神秘さに直接触れ、人と自然の密接な関わりを体験的に学ぶ機会として実施した。6・9月は「野菜作り」、7月は「川遊び」、10月は「ツリークライミング」、11月は「アウトドアクッキング」、1月は「スノーシューハイキング」、2月は「チューブすべり」を実施した。どの回も滝野自然学園のフィールドならではの体験を提供することができた。</p>	<p>時期：6～2月 回数：計15回 会場： 滝野自然学園 人数： 233人（延べ）</p>
	<p>「遊雪塾リトルキャンプ～たきので雪ざんまい～」 小学1～3年生を対象に1泊2日のキャンプを実施した。グループでの絆を深めながら、冬ならではの遊びであるチューブすべりやスノーハイクに挑戦した。親元を離れて宿泊することがはじめてという児童も多くいたが、どの児童も活動を楽しんでいた。</p>	<p>時期：3/9～10 会場： 滝野自然学園 人数：31人</p>

<利用状況>

滝野自然学園 利用集計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	43	165	496	858	916	723	382	213	49	759	375	181	5,160
団体数	1	8	11	17	17	13	10	5	2	12	10	4	110

(前年度比)

人 数：131.7%（前年度人数 3,919人）

団体数：111.1%（前年度団体数 99団体）



(7) 企画事業課【北方自然教育園（指定管理事業）】

事業区分	事業内容	時期等
自然体験学習の提供に関する事業	「自然素材のクリスマスリース」 季節や催事に合わせて、白川地域や北方自然教育園内で採取された自然素材を活用し、クリスマスリースを製作した。参加者は事前に完成予想図を描き、制作に必要な自然素材の材料を集め、家族で協力しながら、クリスマスリースを完成させた。参加者は南区の自然の豊かさに感動しており、あらためて自然の大切さを学ぶ良い機会となった。	時期：11/18 会場： 北方自然教育園 人数：3組7人
	「新年しめ飾りづくり」 自然素材を活用したものづくり体験事業をとおして、創作活動の楽しさや工夫する力を養うとともに、伝統工芸や風習など日本古来からの文化に触れる機会とした。	時期： 12/16、17 会場： 北方自然教育園 回数：計4回 人数：15組50人
地域活動等事業	「自然環境関連セミナー」 北方自然教育園のフィールドや環境に関する内容をテーマとし、広く自然と人との共生を伝え考える機会を提供した。参加した親子は日常的に昆虫に関心が高く、細かな質問を随所で講師に投げかけており、充実した事業内容に満足していた。	時期：3/30 会場： 北方自然教育園 人数：11組26人

<利用状況>

月	施設利用								体験農場		事業		合計	
	学校・園		一般				小計		小計					
	校数	人数	団体数	団体 人数	個人 人数	人数計	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数
合計	64	2,449	22	379	1,783	2,162	86	4,611	76	3,038	148	938	310	8,587



(8) 野外活動課【定山溪自然の村（指定管理事業）】

事業区分	事業内容	時期等
施設運営等事業	<p>「気づきと学びプログラム提供事業」</p> <p>夏季4件、冬季2件のプログラムを開発した。「動物の足跡を探してみよう」では、村内で見られる野生動物の足跡をクイズラリー形式で、各所に掲示した。また、「冬キャンのススメ」では、冬キャンプをする際のポイントや工夫をイラストを活用し、様々な年代が楽しめるよう掲示を行った。</p>	<p>時期：通年 会場： 定山溪自然の村 人数： 1,662人（延べ）</p>
	<p>「初心者向けアウトドア体験事業『ビギナーズキャンプ』」</p> <p>初めて冬キャンプを楽しむ初心者ファミリーを対象に事業を実施した。雪上でのサイト設営やスノーキャンドルづくり、スノーシューハイクなど冬ならではの体験を中心とした冬キャンプの楽しみ方を提案した。事前アンケートを設けたことで、参加者が知りたいことを中心としたプログラムを展開することができ、満足度を上げることができた。</p>	<p>時期：2/10～11 会場： 定山溪自然の村 人数：6組16人</p>
	<p>「社会的課題解決事業 『札幌市児童相談所体験活動提供サポート事業』」</p> <p>札幌市児童相談所一時保護児童を対象に定山溪自然の村をフィールドとした自然体験活動を提供した。「薪割り機」を使った「薪割体験」や「石窯」を使った「ピザ作り」などの体験を通じて、少しずつ笑顔が見られ、子どもたちの心のゆとりや安心感につなげることができ、児童相談所の課題解決の一助になるような取り組みを進めることができた。</p>	<p>時期： 3/19、26、28 会場： 定山溪自然の村 人数： 55人（延べ）</p>

<利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
宿泊	959	1,405	1,000	2,036	2,825	1,533	1,332	1,101	872	1,276	1,163	1,249	16,751
日帰り	85	141	163	271	339	394	325	241	87	315	99	200	2,660
見学	9	10	6	23	18	49	15	3	15	4	9	3	164
合計	1,053	1,556	1,169	2,330	3,182	1,976	1,672	1,345	974	1,595	1,271	1,452	19,575

(人)

(前年度比)

宿 泊	(前年度 11,917人	前年度比 140.6%)
日 帰 り	(前年度 1,929件	前年度比 137.9%)
見 学	(前年度 107人	前年度比 153.3%)
延べ人数	(前年度 13,953人	前年度比 140.3%)



(9) 野外活動課【青少年山の家（指定管理事業）】

事業区分	事業内容	時期等
体験活動 普及・啓発 事業	<p>「大人も子どもも宿泊学習 落ち葉の下の生物多様性」</p> <p>冬の生き物の様子をテーマに事業を実施した。午前中は屋内でクイズなどのアイスブレイクを行い、対象の生き物に対する理解を深めた。午後からは屋外で土を掘ったり、朽木を割ったりしながら生き物探しを行った。見つけた生き物は図鑑で調べ、実体顕微鏡やデジタル顕微鏡などで観察した。夜は施設周辺の森を歩き、夜行性の生き物を観察した。2日目は1日目に見つけた生き物を調べ、生き物カードを作成した。その後、参加者同士でカード交換を行い、情報交換と参加者交流を行った。</p>	<p>時期：11/4～5 会場： 青少年山の家 人数：19人</p>
	<p>「青少年山の家プログラム体験会『空と火と夜の森』」</p> <p>当日は、大雨により屋外での活動はできなかったが、青少年科学館の協力により移動式プラネタリウムを使用し、山の家の星空ボランティア2名による星空解説のほか、自由プログラムとして光の万華鏡工作、焚火でマシュマロ、ホットドリンクなどの体験の場を提供することができた。</p>	<p>時期：11/17 会場： 青少年山の家 人数：32人</p>
	<p>「札幌市林間学校」</p> <p>小学1-2年生コース：冬の森の中でハイキングを行い、植物を調べたり、雪の降り積もる様子や冬山の静けさを五感で感じた。尻滑りや大きな雪玉の作成、かまくらトンネルを作るなど仲間と楽しく遊んだ。</p> <p>小学3-4年生コース：「防災炊事」の実施や仲間と雪の基地づくりを行った。キャンプファイヤーでは全員でダンスに取り組んだ。森をクラス毎にハイキングし、雪と植物に関わる課題に取り組みながら、団結が高まった様子が見られた。</p> <p>小学5-6年生コース：「スノーシューハイキング」とブルーシートを使った基地づくりでは、チームの結束力を高めた。スノーキャンドルを制作し、キャンプファイヤーの会場を盛り上げた。クラスで意見を出し合い、かまくらやリレー、尻滑りなど雪あそびを実施した。</p>	<p>時期：1/6～7 回数： 計3コース 会場： 青少年山の家 人数： 192人（延べ）</p>



<利用状況>

(人)

項目		団体数	実利用者数	延利用者数
学校	幼稚園等（4歳以上）	15	402	502
	小学校	364	24,727	39,478
	中学校	32	1,291	1,946
	高校	16	387	717
	盲聾養護学校	1	82	164
	専門学校	0	28	41
	大学	3	68	122
	その他の学校	9	232	345
青少年団体	少年団体	56	2,607	4,667
	青年団体	19	1,107	1,704
指導者団体	学校教育関係	2	33	62
	社会教育関係	10	371	660
親子		5	43	82
官公庁		16	841	1,138
その他		106	4,090	7,248
主催事業		64	3,295	3,590
計		718	39,604	62,466

(前年度比)

団 体 数 (前年度 594件 前年度比 120.9%)
 実利用者数 (前年度 34,456件 前年度比 114.9%)
 延利用者数 (前年度 53,172件 前年度比 117.5%)



(10) 市民参画課【札幌エルプラザ公共4施設（指定管理事業）】

事業区分	事業内容	時期等
男女共同参画センター ----- 団体とのネットワーク構築・強化	「全国女性会館協議会事業 協働連携事業担当者のための事業構築・実践研修」 特定非営利活動法人全国女性会館協議会との共催で、全国の男女共同参画センターが抱える課題の解決を目的に、協働連携事業を組み立てる企画力や実践力の向上を図る研修を実施した。事例報告やグループワーク、事業計画の作成・発表をとおして、他都市・他自治体での取り組みを学び合っただけでなく、多様なセクターとの連携の必要性や、男女共同参画の視点を取り入れた事業実施による効果についても実感する機会となった。	時期：1/17、18 回数：2回 会場： 札幌エルプラザ公共4施設 2階会議室 人数： 29人（延べ）
市民活動サポートセンター ----- 次世代層向け市民活動促進サポート	「NPOインターンシップ2023」 市民活動の新たな担い手の発掘及び育成と、若者が社会的課題と自分の関わり、生き方、働き方を考える機会の提供を目的に、インターンシップとして一定期間、市民活動団体で活動を行った。令和5年度は、新規受入団体が2団体加わったほか、学生主体で市民向けの活動報告を行うなどの新たな取り組みも取り入れ、市民活動の先にある社会課題への関心を高めることにもつながった。また、OG生から現役生へアドバイスするなど、プログラム終了後の継続した市民活動との関わりにもアプローチできた。	時期：7～3月 会場： 市民活動サポートセンター 各団体活動拠点 人数：21人
環境プラザ ----- 講座・研修・交流会	「自然体験プログラムづくり講座」 本講座ではグループワークを多く取り入れ、同じ指導者同士の意見交換の場として活用されていた。また講師による実践的な内容の提供と環境プラザが行う活動支援内容の紹介により、参加者の自発的な活動を促すことができた。併せて、環境プラザが行っている貸出教材や見学ツアーについても指導者に周知し、環境教育・学習の推進に寄与することができた。	時期：3/17 会場： 札幌エルプラザ公共4施設 2階会議室 人数：19人
情報センター ----- 図書・視聴覚資料活用事業	「すべての人の働き方のための読書会 『キャリアに活かす雇用関係論』を読む」 キャリアの形成過程をジェンダーの視点から分析した書籍『キャリアに活かす雇用関係論』を参加者全員で読み、雇用形態・ハラスメント・昇任・転勤異動・産休育休等、全ての働く人に関連するデータ・課題を知ること、各々の視点で労働者のキャリアを考える事業を実施した。	日時：3/14 会場： 情報センター 人数：7人



L・PLAZA
札幌エルプラザ公共4施設

<利用状況>

(人)

	男女共同 参画センター	消費者 センター ※	市民活動 拠点センター	環境プラザ	公共 4施設設計	情報 センター	エントランス	令和5年度 総利用者数
施設利用	223,062	19,371	34,164	16,152	292,749	122,873	4,756	420,378
相談事業	324	9,734	759	54	10,871	-	-	10,871
視察・見学	2	0	38	611	651	-	-	651
展示コーナー		-	-	16,648	16,648	-	-	16,648
総合学習		-	-	508	508	-	-	508
施設外事業	1,122	-	3,336	1,129	5,587	-	-	5,587
計	224,510	29,105	38,297	35,102	327,014	122,873	4,756	454,643

※消費者センター施設利用、相談事業件数に関しては消費者協会分を含む

(前年度利用者数)

施設利用	270,018人（前年度比155.7%）
相談事業	10,473人（前年度比103.8%）
視察・見学	516人（前年度比126.2%）
展示コーナー	21,587人（前年度比77.1%）
総合学習	591人（前年度比86.0%）
施設外事業	36,763人（前年度比15.2%）
総利用者	435,432（前年度比104.4%）



(11) 企画事業課【イベント事業（地域活動等事業：自主事業・受託事業）】

事業区分	事業内容	時期等
受託事業	<p>「こどものまち『ミニさっぽろ2023』」 ミニさっぽろ実行委員会事務局主催として、当日の指導運營業務を行った。小学3・4年生を対象に4年ぶりに実施となり、職業体験、消費体験のほか、納税や市民憲章など、様々な体験をとおして、働くことの大切さやまちの仕組みを学ぶほか、自主性、主体性などを養う機会とした。</p>	<p>時期： 9/30、10/1 会場： アクセス サッポロ 人数： 2,618人（延べ）</p>
	<p>「2024さっぽろ雪まつりつどーむ会場すべり台等制作・運營業務」 受託事業として実施。コロナ禍により長らく中止をしていた「さっぽろ雪まつり つどーむ会場」の屋外アトラクションの制作及び運営の業務を担った。制作・運営ともに数年ぶりのため経験者がほぼおらず、試行錯誤ではあったが委託者や札幌市、雪まつり実行委員会などと連携をはかりながら、札幌市の観光需要拡大の一翼を担うことができた。</p>	<p>時期：12～2月 運営：計8日間 会場：つどーむ 人数：626,000人 （会場全体の 来場者総数）</p>
	<p>「下水道科学館冬のお楽しみ会」 一般財団法人札幌下水道公社からの受託事業として、昨年に続き実施。室内の工作コーナー（スライムづくり）と屋外の宝探しコーナーを企画運営した。下水道科学館の来館者増を目的に実施し、各コーナーのために来館される方も多くおり、科学館としての目的は達成することができた。</p>	<p>時期：2/23 会場： 札幌市 下水道科学館 人数：190人 （担当コーナー）</p>



7. 基金事業

(1) こども基金「さっぽろスマイルキッズ」助成事業

①協力者一覧

寄付金総額 465,428円（全22件）

【団体】 30,000円（3件）

寄付者氏名	寄付額 (円)
人形劇団えりっこ	10,000
やまびこ座読み語りの会	10,000
人形劇団ばびぶ	10,000

【法人】 331,328円（6件）

寄付者氏名	寄付額 (円)
弁護士法人名南総合法律事務所 札幌事務所	100,000
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	21,328
道民防災コンサルタント株式会社	50,000
株式会社 舘野オフィスサービス	50,000
北海道デジタル・アンド・コンサルティング株式会社	10,000
株式会社アドバコム	100,000

【個人】 104,100円（13件）

寄付者氏名	寄付額 (円)
個人寄付者	104,100

②助成対象一覧

助成金総額 1,019,781円（全6件）

【滝野自然学園活用型事業】

事業名	実施団体	助成額 (円)
・野あそびキャンプ	特定非営利活動法人 こども共育サポートセンター	180,200
・きんちゃんの自然学校	YOSHINOBORI	88,000
・2023滝野さとやま探検隊 = 森と川はおともだち =	特定非営利活動法人 ネイチャープログラムデザイン	200,000

【一般活動事業】

事業名	実施団体	助成額 (円)
・宇宙船地球号ミッション！in札幌・江別	宇宙船地球号ミッション！ 札幌・江別実行委員会	154,551
・自然の中で思いっきり遊ぼう！ ～DVシェルターを退所した 親子のためのキャンプ～	特定非営利活動法人 女のスペース・おん	200,000
・札幌市の中高生のためのフードバンク事業	Hokudai Food Bank	197,030

③基幹事業

事業内容	時期等
<p>「ミニさっぽろ2023 チケットプレゼント」</p> <p>全ての子どもたちが将来に対しての夢や希望を持てるような体験機会の創出を促進することを目的に、ひとり親世帯、生活保護受給世帯、就学援助利用世帯等の小学3、4年生を対象に「こどものまち「ミニさっぽろ2023」」のチケット100名分を用意した。募集人員に対して約3倍の申し込みがあり、需要の高さが伺えた。当日参加した児童は、「ピザ屋さん」や「ガソリンスタンド」などの就職先で働き、お給料として「ドレ（通貨）」を獲得しながら、職業体験を楽しんでいた様子があった。</p>	<p>時期：9/30、10/1 会場： アクセスサッポロ 人数：100人 ・9/30 50人 ・10/1 50人</p>
<p>「みんなでおとまりしてみよう!たきのウィンターキャンプ」</p> <p>心・身体にハンディキャップをもち、小学校や体験活動から遠のいている子どもたちを対象に滝野自然学園にて体験活動を提供した。1泊2日の宿泊事業として、スノーシュー体験やチューブ滑り、ホットサンド作りなどを体験し、「やってみよう!」や「みんなで協力してできた!」というようなチャレンジ・成功体験が垣間見え、自己肯定感や社会性の向上に寄与できた。</p>	<p>時期：2/17、18 会場： 滝野自然学園 人数：11人</p>



(2) こども若者応援基金「さっぽろユースチャレンジ」事業

①協力者一覧

寄付金総額 3,225,400円（全28件）

【法人】 2,671,000円（10件）

寄付者氏名	寄付額 (円)
株式会社ノーススターラボ	50,000
札幌ロータリークラブ	300,000
有限会社クローバー観光	20,000
サッポロシニアライオンズクラブ	100,000
札幌コズミックシニアライオンズ	100,000
北央電設株式会社	500,000
北海道行政書士会札幌支部	50,000
保育園ペンタゴン	6,000
法人寄付者 2件	1,545,000

【個人】 554,400円（18件）

寄付者氏名	寄付額 (円)
個人寄付者	554,400

②子ども・若者の居場所「いとこんち」事業の様子

札幌市立中島中学校区内にある民泊施設を活用し、おおむね13歳から19歳の子ども・若者を対象に、週3日程度、勉強や食事、料理、入浴などの日常生活を送り、社会的自立を目指す家庭生活体験の場を提供した。地域交流拠点である一軒家「ひとてま」では、集まった寄付や物資による子育て世帯や若者への「おすそ分け」や、食事提供と学習支援・就労体験を合わせて実施した。また、事業用大型車両「リビングカー」を活用し、中島中学校から依頼を受けた「朝カフェ」やスポーツ観戦、サーカスなど「家族のお出かけ」を模した体験機会創出を行った。



<利用状況>

	開所日数	本人	家族	支援者	来室者計
いところち	155日	延べ498人	延べ70人	延べ185人	753人
ひとてま	149日	—	—	—	1,409人

<実施イベント>

就労体験・支援（農業、CAD講習）、リビングカー事業（事業用大型車両を用いた居場所作り）、学×食（食の提供を含む学習支援）、体験機会給付（野外活動、文化活動）、中島中学校 朝ごはんカフェ、地域交流活動（ひとてまつりく寄席、夏祭り、クリスマスパーティなど）

8. 重要な契約に関する事業

(1) 地域活動等事業

(千円)

契約の概要（業務名）	相手方	契約金額
札幌まなびのサポート事業	札幌市長	54,998
地域若者サポートステーション事業	北海道労働局総務部長	48,973
子どものくらし支援コーディネート事業	札幌市長	29,095
札幌市困難を抱える若年女性支援業務	札幌市長	17,877
ヤングケアラー相談サポート事業	札幌市長	7,260
困難を抱える女性に対する支援業務	札幌市長	6,530

(2) 指定管理事業

(千円)

契約の概要（業務名）	相手方	契約金額
札幌市児童会館及び札幌市こども人形劇場管理業務	札幌市長	3,812,819
札幌エルプラザ公共4施設管理業務	札幌市長	261,771
札幌市若者支援施設管理業務	札幌市長	179,067
札幌市青少年山の家管理業務	札幌市教育委員会教育長	128,815
札幌市定山溪自然の村管理業務	札幌市教育委員会教育長	77,647
札幌市こどもの劇場やまびこ座管理業務	札幌市長	47,379
札幌市東山児童会館管理業務	札幌市長	16,906
札幌市北方自然教育園管理業務	札幌市教育委員会教育長	19,563
千歳市青少年会館管理業務	千歳市長	4,689

(3) 受託事業

(千円)

契約の概要（業務名）	相手方	契約金額
札幌市ミニ児童会館管理運営業務	札幌市長	2,221,120
千歳市児童館・学童クラブ運営業務	千歳市長	394,686

Ⅳ. 事務報告

1. 設立年月日

昭和55年4月1日

2. 定款に定める目的

この法人は、人とのつながりを通じて青少年の健全育成と青少年女性の社会参加を促進し、魅力あふれる地域社会創造のための主体的な活動を支援することにより、地域社会の発展及び向上を図り、もって豊かな生活の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
- (2) 社会教育の推進に関する事業
- (3) 市民活動の振興に関する事業
- (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

4. 事務所の状況

主たる事務所 : 札幌市西区宮の沢1条1丁目1番10号

従たる事務所 : 札幌市中央区南4条西6丁目8番3号晴ればれビル10階

5. 役員等に関する事項

(1) 理事

理事長	本 間 芳 明	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 理事長
専務理事	森 有 史	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 専務理事
理 事	相 馬 宏 哉	(特非)ネイチャープログラムデザイン 理事長
理 事	菊 地 秀 一	(一社)札幌市私立保育連盟 会長
理 事	藪 淳 一	(一社)札幌市私立幼稚園連合会 会長
理 事	生 出 裕 一	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 事務局長
理 事	犬 嶋 ユカリ	(株)井上技研 取締役副社長

(2) 監事

監 事	西 田 史 明	札幌商工会議所 理事・事務局長
監 事	田 瀬 祥 夫	(一社)エリアクラフト北海道 代表理事 / 公認会計士

[令和6年3月31日現在 計9人]

令和5年度における理事会は、次のとおり4回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和5年 6月7日	【第41回理事会】 1「令和4年度事業報告及び附属明細書の承認」の件 2「令和4年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び附属明細書並びに財産目録の承認」の件 3「令和5年度 予算の変更」の件 4「定時評議会の日時並びに目的である事項」の件	1 可決 2 可決 3 可決 4 可決
令和5年 6月23日	【第42回理事会】 1「理事長及び専務理事の選定」の件 2「役員の報酬月額等の決定」の件	1 可決 2 可決
令和5年 11月7日	【第43回理事会】 1「職務執行状況報告」の件 2「決議の省略の方法による評議員会の招集」の件	1 報告 2 可決
令和6年 3月8日	【第44回理事会】 1「職務執行状況報告」の件 2「令和5年度予算の変更」の件 3「令和6年度事業計画書及び収支予算書等の承認」の件 4「役員賠償責任保険の契約更新」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決

(3) 評議員

評議員	東 田 俊 和	(公財)北海道青少年育成協会 専務理事
評議員	梶 井 祥 子	札幌大谷大学 教授
評議員	菊 池 恒	札幌市商店街振興組合連合会 相談役
評議員	西 田 充 潔	北星学園大学 教授
評議員	秦 直 樹	社会福祉法人常德会 理事長
評議員	林 美枝子	日本医療大学 教授
評議員	林 川 希	札幌市PTA協議会 副会長
評議員	箭 原 恭 子	(公社)札幌市母子寡婦福祉連合会 理事長

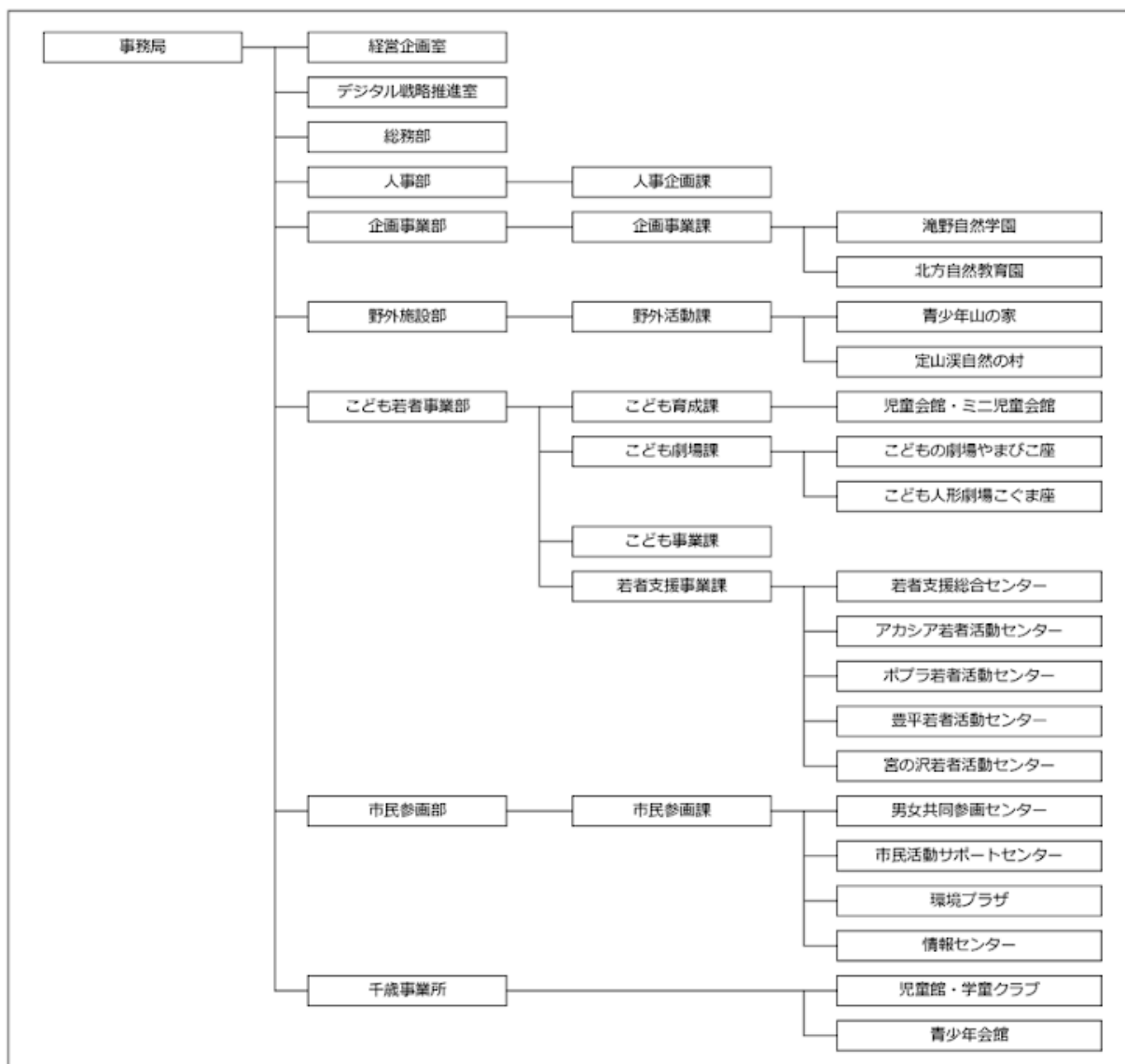
[令和6年3月31日現在 計8人]

令和5年度における評議員会は、次のとおり2回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和5年 6月23日	【第12回評議会】 1「令和4年度事業報告及び附属明細書」の件 2「令和4年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認」の件 3「理事の選任」の件 4「評議員の選任」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決
令和5年 11月14日	【第13回評議員会】 1「監事の選任」の件	1 可決

6. 職員に関する事項（令和5年度末現在）

令和6年3月31日現在における事務局組織は次のとおりである。



(1) 主要な職員

役職名	氏名	採用年月日	担当職務
事務局長	生出 裕一	平成元年6月19日	財団運営業務の総括
経営企画室長	土井 聖子	平成12年4月1日	経営企画室業務の総括
総務部長	岡本 峰子	昭和61年4月1日	総務部・デジタル戦略推進室業務の総括
人事部長	佐々木 勝敏	平成12年4月1日	人事部業務の総括
野外施設部長	石井 一彦	昭和63年4月1日	企画事業部・野外施設部業務の総括
こども若者事業部長	会田 彰仁	平成4年2月1日	こども若者事業部業務の総括
こども若者支援担当部長	松田 考	平成13年1月1日	こども若者支援事業業務の総括
こども育成担当部長	矢吹 英孝	平成3年4月1日	こども育成部門業務の総括
市民参画部長	五十嵐 健二	平成元年4月1日	市民参画部業務の総括
千歳事業所長	山田 憲克	平成10年4月1日	千歳事業所業務の総括
総務課長	加藤 孝	平成12年4月1日	総務・財務・経理等の総括
人事企画課長	佐々木 初美	平成15年4月1日	人事・労務等の総括
人材開発担当課長	山田 弓人	平成8年12月1日	職員採用及び人材確保の総括
企画事業課長	小林 剛至	平成12年8月1日	企画事業課業務の総括
野外活動課長	斉藤 美季	平成 5年6月1日	青少年山の家・定山溪自然の村の総括
こども事業課長	森口 雅和	平成11年10月1日	こども事業課業務の総括
管理担当課長	照井 良和	平成12年4月1日	児童会館管理に関する総括
こども育成課長	野坂 真英	平成11年1月1日	育成課調整に関する総括
児童会館担当課長	大場 睦彦	昭和62年4月1日	児童会館（北・西担当）
児童会館担当課長	蓮井 潤子	平成4年4月1日	児童会館（中央・南・手稲担当）
児童会館担当課長	高橋 雅裕	平成 8年 5月1日	児童会館（厚別・清田・白石担当）
児童会館担当課長	工藤 明美	平成11年6月1日	児童会館（東・豊平担当）
こども劇場課長	山田 啓貴	平成11年4月1日	こども劇場課業務の総括
若者支援事業課長	大水 千広	平成12年4月1日	こども若者支援事業業務の総括
市民参画課長	高坂 美江	平成12年4月1日	エルプラザ公共4施設業務の総括
千歳事業所課長	乾 由美子	平成11年6月1日	千歳事業所の総括

(2) 職員数

事務局長職	1人	主任パートスタッフ	269人
総合職	534人	サポートスタッフ	44人
児童指導員	225人	再任用職員	26人
専門指導員	31人	臨時職員	73人
職場限定職員	13人	パートタイム職員	1,043人
合 計			2,259人
内常勤職員数	1,119人	内非常勤職員数	1,140人

7. 会計に関する事項

公認会計士の関与の有無

監査契約締結（「独立監査人の監査報告書」：令和6年5月24日）

